

http://www.jwn.ne.jp/chunichi/saigai/

毎月1日は東海地震特集

生活に欠かせない家具や家電製品が地震のときは倒れたり飛んだりして私たちに襲いかかる。避難路をふさぐことも。最大震度6弱の揺れに二度と見舞われた九月下旬の十勝沖地震では、約八百四十人の負傷者の多くが家具の下敷きになるなど自宅内ではがしをたといわれる。家具と家電製品をしっかり固定することは、家族の安全を守る第一歩だ。

『逃げる、下敷きに』

倒れる本棚 ガラス散乱

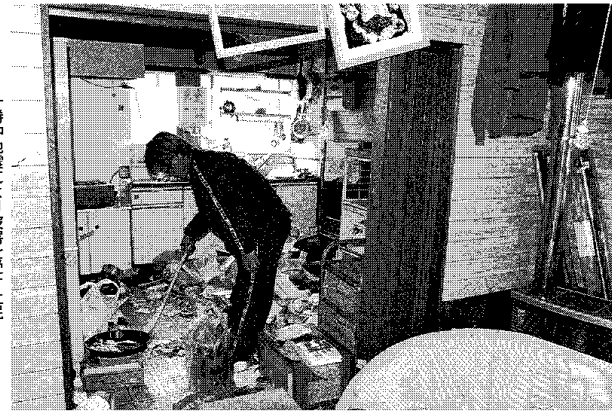
「あつし、食器棚の向以外に、記憶がないんです。きずれていた、あの子」
北海道静内町に住む茂木さん(40)は、九月二十一日早朝、震度6弱の揺れが日高、十勝地方を襲った。だが、倒れたたんすやテレビで留守。食器棚の自には落下物やガラスが散乱。宅には、妹が子も二人を。抱きかかえ、倒れた食器棚の上を歩いた。近所の実家に避難した。茂木さんが住むのは地起きあがることでも、揺れ。家具を固定しない。当時まだ生後一ヶ月。きょ」と、L型金具は買った。無事だったこと。ち」と思っている。

備える

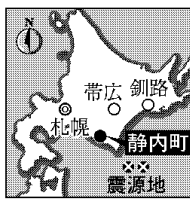
その18「家具の固定」

十勝沖地震ルポ

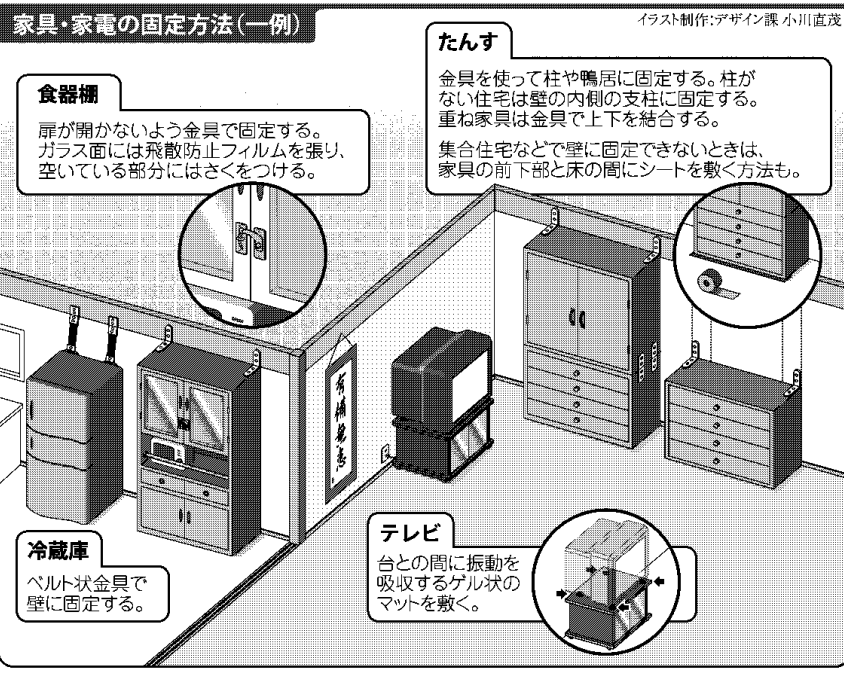
家に潜む凶器



十勝沖地震により被害を受けた民家。9月26日、北海道静内町で。



静内町山手町の木造一階建てに住む大平睦子さん(55)は、倒れた本棚に「きず」をうけた。本棚が二つ、壁一面を埋めていた。本棚の上には、さらに小さい棚が載っていた。早く逃げる、下敷きになるぞ」
傾いた本棚を必死で押さえておいて、隣室から夫の叫び声。あわてて居間に逃げると、背後で本棚が二つ、ふとんの上に倒れた。
本棚だけではなかった。食器棚や仏壇も倒れ、電子レンジやテレビは台から飛び落ちていた。玄関の額も落ちてガラスが粉々に。倒れた花瓶の水で床は水浸し。落下物が当たったのか、洗面台も割れた。
あわてた大平さんは居間から外に避難しようとしたときに転倒。左すねのすり傷の跡が今も消えない。夫も家具にぶつかったのか、右腕にけがをしていた。
恐ろしい体験から大平さんが得た教訓は「高いところ」に物を置かない、家具は留めることだった。(池田千晶)



家具・家電の固定方法(一例)

イラスト制作:デザイン課 小川直茂

たんす
金具を使って柱や鴨居に固定する。柱がない住宅は壁の内側の支柱に固定する。重ね家具は金具で上下を結合する。集合住宅などで壁に固定できないときは、家具の前下部と床の間にシートを敷く方法も。

食器棚
扉が開かないよう金具で固定する。ガラス面には飛散防止フィルムを張り、空いている部分にはさくをつける。

冷蔵庫
ベルト状金具で壁に固定する。

テレビ
台との間に振動を吸収するゲル状のマットを敷く。

固定法 基本は柱や壁に直接

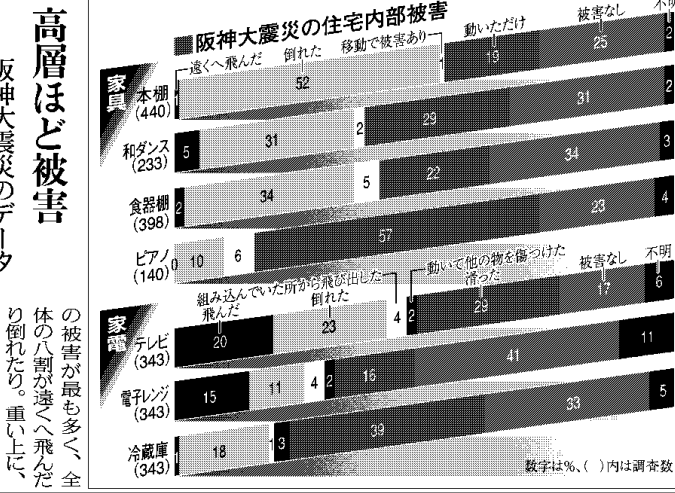
器具は正しく使って

一般家庭で15万円程度

「家具を傷つけない」「見た目を美しく保ちたい」という人はプロに頼むのがよいだろう。一体いくらかかるのか。室内安全対策業務を手掛ける田中商店(名古屋千種区)によると、5人家族の家庭で、家具や家電製品をすべて固定するケースで総額15万円程度が目安という。
たんすや本棚の固定は一個当たり8000円から。L型金具は使わず、ステンレス製の特殊な金具で、表から見えないように取り付け。縦揺れ、横揺れ、いずれにも対応し、取り外しが簡単なのが特徴。柱との距離が離れていて、補助器具を使う場合は1万8000円程度かかる。
ベルト式金具を使う冷蔵庫の固定は8000円から。重量の重いピアノは、床に穴を開けるなどするため約3万円かかる。飛散防止フィルムは1平方メートル当たり5800円。

ホームセンターなどで売っている壁センサーを使って探る。上下に積み重ねる家具は、上の家具だけ固定しても意味がない。必ず上下をがっちり連結する。
食器棚は壁に固定するだけでなく、食器が飛び出さないよう扉を開き、扉をロックできる金具を付けた。ガラス面には飛散防止フィルムを張り、倒防止金具がない場合は、ベルト式の金具などを使って家具と同じ要領で壁に固定する。
集合住宅や賃貸住宅では、勝手に金具を打ち付けられない場合もある。まずは家主や管理事務所に相談した。マンションなどは多くがコンクリート壁のため、自力では難しい。
ただし、素人でもできる。とがある。家具の前下部と床の間に細長いシートや板を挟んで重心を後ろに移せば、多粘着式のベルトを使って壁に少し倒れにくくなる。重心を固定する。

本棚5割以上転倒、出入り口ふさぐ例も



高層ほど被害

一九九五年の阪神大震災。家具で最も被害が大きかったのは本棚。奥行きが浅く重量があるため、出入り口をふさがれたり、五割以上が転倒した。置かれた床は、じゅうたんだった場合、フローリングやタタミより倒れやすかった。家具を積み重ねたり、物を置いたりして、高層住宅では八割程度は上のものが落ちた。家電製品では、テレビが被害が大きかった。

阪神大震災のデータ
家具で最も被害が大きかったのは本棚。奥行きが浅く重量があるため、出入り口をふさがれたり、五割以上が転倒した。置かれた床は、じゅうたんだった場合、フローリングやタタミより倒れやすかった。家具を積み重ねたり、物を置いたりして、高層住宅では八割程度は上のものが落ちた。家電製品では、テレビが被害が大きかった。

『家具は飛ぶもの』 名古屋でNPOが活躍 地域で固定法伝授

し、家具の配置についてアドバイスもする。岩渥さんは阪神大震災の際、神戸市灘区の自宅でも本棚が飛ぶのを目の当たりにした。震災後に訪れた、防災先進県・静岡県では、食糧の備蓄など災害が起きてからの対策ばかりが強調され、事前の対策があまりに少ないのを知り、がくせんとなったという。経営する画廊をだんだん静岡市に移り住み、自ら家具転倒防止器具の開発、製造販売する会社を設立した。

一方、自らの体験から学んだことを伝えようとするNPO「震災から命を守る会」を立ち上げた。RSYの栗田暢之事務局長(50)は、「『家具は固定するもの』という意識を地域に広げるとともに、地震が起きたときに『あのおばあちゃん大丈夫かなあ』と思いついて、救援に駆けつけようというふうにならなければならない」と、お年寄りの家に行くと、粘着テープ付きのベルト式金具で家具を固定しているのを見かけた。